２０１７年7月１０日

公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団

# 【開催報告】「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」

# 受賞記念講演会・シンポジウム

公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団は「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞※」の受賞記念講演会とシンポジウムを開催しました。

※「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」は、優れた社会福祉学術文献を表彰する制度で、社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者・研究者の研究意欲の促進と、わが国の社会福祉の発展に寄与することを目的として1999年に創設しました。

記

１．開催日時 ：２０１７年７月１日（土） １３時～１７時

２．場　　所 ：グランドアーク半蔵門 （東京都千代田区）

３．参加人数 ：約１００人（大学関係者、学生・研究者、企業・行政の担当者、社会福祉団体関係者ほか）

４．主　　催：公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団
　　後　　援：厚生労働省、一般社団法人日本社会福祉学会、
　　一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本地域福祉学会、
　　日本社会福祉系学会連合、

５．内　　容
　＜第Ⅰ部＞ 受賞記念講演会
　　受　　賞　　者： 衣笠　一茂 氏 （大分大学福祉健康科学部学部長 教授）
　　受　賞　著　書：『ソーシャルワークにおける
　　「価値」と「原理」－「実践の科学化」とその論理構造－』
　＜第Ⅱ部＞ シンポジウム
　　テ　ー　マ　：「ソーシャルワークと子どもの最善の利益」
　　コーディネーター：芝野　松次郎 氏〔関西学院大学人間福祉学部 教授〕
　　パ ネ リ ス ト　：伊藤　嘉余子 氏〔大阪府立大学地域保健学域 教授〕
　　：畠山　由佳子 氏〔神戸女子短期大学幼児教育学科 准教授〕
　　コメンテーター：衣笠　一 茂　氏〔大分大学福祉健康科学部学部長 教授〕

６．参加者の感想
・「自己決定」について、近代を踏まえての解説、自己判断や能力があって近代社会が成り立つがそこからこぼれる人の生きづらさ、尊厳の喪失についての話が大変興味深かったです。
・刺激的な話で、多くのものを示唆された。日頃の実践の中で「自己決定」という言葉の使われ方をもう一度考えさせられました。
・ソーシャルワーク実践の中で、継続性、永続性を語るとマニュアル化を語られることが多い中、そうではない論理の糸口（新たな関係性の価値の実践）を得ることができました。
・子どもの最善の利益について何が問題であるか整理されていてよく理解できた。これからこの問題をどうやって解決していくのか考えるきっかけとなりました。

以上